

2014.10.3

「街道を歩いて、日本再生をしよう！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は10月3日の金曜日です。

今日は久々にビデオレターを更新させていただきます。前回もお話しましたように、実は私は今年になりまして東海道、そして中山道の二つの街道を歩いて来ました。そして、この1000kmを超える旧街道を歩いて非常に色々な物を見てきた訳です。今日お話するのは、地方創生の鍵となるのが実は旧街道をもう一度歩いてもらうことではないかということでもあります。

ご存知のように東海道や中山道を初めとする旧街道は、かつての参勤交代の時に京から江戸へ行く道として使われてきました。しかし、物流自体は、勿論荷馬車で運ぶこともありましたが、多くは北前船を始めとした船を使って物流を担ってきました。しかし人間は街道を本当に歩いて行ったのです。そのため、宿駅伝馬制という形でそれぞれの宿場から宿場まで馬が揃っていたり、飛脚がいたりして、またそこに本陣や脇本陣、旅籠などがあり、途中には茶屋が何軒もあるというように歩くためのインフラが整備されており

ました。その結果、沢山の方がそこを行き帰りに使い、そしてそこを行き帰りに使うと当然お金が落ちる訳です。人が歩くということがお金が回っていく元になっているのであります。それぞれの宿場町はそれぞれ大変繁盛した訳であります。

調べて参りますと、江戸時代の人口は大体 3000 万人そこそこなのですが、その参勤交代だけではなくて時として 60 年に一度、「ええじゃないか。」ということでおかげ参りをするのが流行ることがありました。この時には、一説には 400 万人を超えるような方がそこをお参りしたとも言われておりますが、これは人口の一割を超えるような人達が街道筋を廻る事になります。ですからその街道筋は大変賑わってきた訳です。

ところが、中山道にしましても東海道にしましても、今やとんでもない廃れた状況になっております。勿論、観光で売り出しているような馬籠や妻籠のような地域では立派な昔の地域や景観が残っており、また箱根のような景勝地もあるのですが、全体として見ますと大変廃れているのが現実です。しかし、実際歩いて行くとやはりそこには日本の原風景があるわけです。しかし、首都圏の東海道や中山道を歩いていても殆どそれは感じられません。感じられないけ

れどもビルや工場が建ち、経済的には首都圏は発展しているように見えます。ところがそこは現実には日本でも東京でもない、無機質な、無国籍な荒野のような気さえ私はする訳です。しかし、そこには日本を感じられません。

一方で、旧街道から違うところに新しい国道やバイパスができていて、旧街道が昔のまま残っている地域も沢山あります。そういった所に行きますと、逆に経済発展からは取り残されたのですが、かつての日本の姿がそのまま残っている地域がたくさんあります。しかし、こうした地域ももう何年もしますと、恐らく人が住んでおらずまた、もし住んでいたとしてもお年寄りばかりですから、また、建物自体も閉ざされたままで残っている物も沢山ありますが、これも恐らく廃屋となって潰れてしまうのでしょうか。ですから今しかないのですが、もう一度旧街道を歩ける状況にしてはどうかということなのです。

私が実際歩いて思いましたのは、とにかく一つにはかつては茶店が有りましたが現在はありません。ですから、休憩する場所が無いということです。都市部ではコンビニがありますから、何とかその役割を果たしてくれます。ところが、特に中山道のような山の中を

国道から外れて歩いている所では、和田峠も碓氷峠もそうですけれども、20 km近い間一切茶店も何もありません。山の中の道でありますから、補給が大変なのです。勿論、かつてはそこに茶店があり、間の宿があつたりして休んだり食料を補給したり水を飲ませて貰つたりできたのですけれどもそれが全く出来ません。出来ないどころか街道筋の道がもう既に人が通らないために雑草が生え、木が倒れていて、また雨が降って澤になってそのままになっているというように、道が壊れてしまっている所も沢山ある訳です。ですから、今の状況では誰もが歩けるという状況ではありません。やはりそこはかつての東海道も皆そうだったのでしょうが、地元の藩がお金を出して整備をさせられていたのです。歩けるような状況にするべきです。そして、山の中の場合にはまだ木陰になっているから良いのですけれども、平地に下りてくると今は並木が殆ど無くなっております。かつては松並木や杉並木があつて一休みができ、何よりも私が歩いたのは真夏でしたけれども、真夏の日差しから守ってくれますが、今はそれがありませんからへトへトに疲れてしまいます。これでは歩くことは出来ません。しかし、ちょっとした工夫が必要です。また道標も十分立っておりませんから、自分がどこを歩いているの

か間違っているのか正しいのかもさえ分からない所もたくさんあり、不安もつきまといましたけれども、そういった社会インフラをもう一度やり直す必要があります。それには莫大な予算は掛かりません。舗装する必要も無いと思います。かつての地道で良いのです。ただ整備をして歩けるようにしてあげれば良いのです。そしてそれをするとなんが起ころのかといえば、正にかつての人口は 3000 万人で現在は 1 億 2000 万人で、しかも元気で会社を引退された方はかつての江戸時代の人口以上に現在の日本の中に居られる訳です。そしてこの方々が江戸時代と同じ様に地域を歩き出す、しかも江戸から京都、または京都から江戸の旧街道をいっぺんに歩かなくても良いのですから、そういう目的と物語を持って歩くと、物凄い人がそこを歩いてくれるようになるのです。また人が移動すれば当然、茶店が必要になります。そしてそこには人が雇われるようになり、産業が出来るるとそこに人が住むようになります。かつての宿場がそういった状況で発展してきたのと同じ様に、日本ももう一度旧街道に人が歩くようになるとそこは間違いなく経済が発展するのは江戸時代から証明されています。その経済効果というのは計り知れません。それにはインフラ整備という予算が掛かりますがその予算以上に経済

効果、そして何よりも皆様の健康状態が物凄く良くなります。歩くということはどれほど素晴らしいことかということでもあります。

私も実は今年は2回目の大峰山に登ったのですが、大峰山に毎年登っておられる大先達の方が私におっしゃったことは、「大峰山を歩くことも修行だけれども、本当は西田さんが歩いているように、昔の人は毎日10 km、20 km、30 kmも歩いていたけれども、歩くということが本当の修行になるのです。」とおっしゃいました。正に私も歩きながらそういったことも感じました。それを楽しく、安心して歩ける仕組みを作っていけば、地方創生にとっても大変大きなインパクトを与えると思います。ですから、これをまとめて、安倍総理や石破大臣に提言をさせて頂きたいと思っております。是非皆様方も一度歩いてみられてはいかがでしょうか。この事は次週発行する予定の私の後援会の機関紙の「show you」にも具に報告させて頂きたいと思っております。是非皆様方にも歩いて街を取り戻す事と、自分の健康を取り戻して、日本の良き財産を次の世代に残せる仕組みを作ろうじゃないかということをお話させて頂きました。

本日も御覧頂きありがとうございました。